

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

[めざす学校像]

文武に偏りのない、地域と共に歩む、“骨太の人格”を備えた人材を輩出する学校

・・・骨太：「何にでも果敢に挑戦する、そして少々のことではへこたれない」という意味。

「勉強を頑張る」「学校行事も頑張る」「部活動も頑張る」、何事にも真剣に取り組み、社会に貢献できる若者を育成できる学校・・・

めざす学校に近づけるために、育みたい生徒の力・望む教職員の力

[生徒に育みたい力]

- 学び続ける力（主体的な学習への取り組み）
- 人と繋がる力（コミュニケーション能力の獲得）

[教職員に望む力]

- 生徒に関心をもつ力

2 中期的目標

1 学び続ける力の育成

☆国公立大学への現役合格80名（8クラス規模で）（H28 58名）

- (1) 八尾高スタンダードの「見える化」（マニュアル化）を平成31年度に完成する。
- (2) 教科としてのスタンダードの完成・展開（アクティブラーニング）
- (3) 1年次「1学期」でのボトムアップ
- (4) 自学自習・家庭学習の充実
- (5) アドバンス教育コースの充実
- (6) 次期学習指導要領（平成32年から順次実施予定）及び高大接続特別部会（平成24年9月に設置、「大学入学者選抜」「高等学校教育の質保証」「大学教育の質的変換」を一体的に行う方策を検討）の研究・対応
- (7) 本校教員による講習・教育産業の有効活用

2 人と繋がる力の育成

- (1) 授業を大切にする、授業の緊張感を大切にするからこそその遅刻防止
- (2) 勉学に軸足を置いた学校行事の活性化
- (3) 勉学に軸足を置いた部活動の活性化
- (4) 人権教育スタンダードの策定・展開
- (5) 生徒指導スタンダードの見直し・実践

3 生徒に関心をもち続ける教育活動

- (1) わかる授業・できる授業・魅力ある授業（生徒に日々の成功体験と背伸びする勇気を）
- (2) 教育相談活動の充実
- (3) 研修の充実
- (4) 安全衛生委員会、運営委員会の充実

4 地域と共に歩む学校

- (1) 大阪教育大学における聴講制度の継続
- (2) 地域の教育関係機関（中学校・小学校・幼稚園等）や行政機関との連携の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年10月実施分]	学校協議会からの意見
<p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 37項目の質問中14項目で90%以上の肯定率 経年変化を見ても高い水準を維持している →依然として八尾高校への信頼と期待は厚い ○ 今回調査を含め過去3年間最も低い項目は「家庭学習」 「子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる」67% →生徒の家庭学習時間を増やすことが今後の課題 <p>《教職員》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員間の連携に関する項目2つではじめて50%を切った →教職員がコミュニケーションを活性化させる必要あり ○ 学校運営に関する項目が相対的に低迷している →校長のリーダーシップのもとチーム八尾高を作る必要あり <p>《生徒》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育に関する質問の肯定率が低い（50～60%） →人権教育の充実が課題 ○ 2年生12月時点で受験を意識した勉強を始めている率 前年度比32P向上したが依然として低い51% →2年生の中だるみを少なくし早めの受験準備が必要 ○ 部活動に積極的な生徒が多いと感じている生徒が95% →「文武両道」の八尾高校の特色として大事にしたい 	<p>第1回（平成29年5月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現役の国公立大学の進学率は高く、非常によく頑張ってくれていると思う。 ○ 一方で、勉強と部活動の両立は引き続いての課題であろう。 ○ 「主体的・対話的で深い学び」への対応が必要なのではないか。 ○ 同窓会は学力向上でも部活動振興でも支援したい考えである。 ○ 1年生後半から2年生で成績を落とす生徒を減らす方策を立てるべき。 <p>第2回（平成29年10月30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活時間を効率的に使っていない生徒が多いのではないかと。 ○ 部活動と勉強の両立は難しいと思うが生徒の満足度を上げてほしい。 ○ 受験モードになるのが遅い気がする。2年生の中だるみ対策が必要。 ○ 八尾高の部活に魅力を感じて入学する生徒もいる。文武両道を大切に。 <p>第3回（平成30年2月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 八尾高校の良さをもっとアピールする工夫が必要。 ○ 広報活動は動画の活用や生徒の笑顔を前面に出すなど他校との差別化が大事。 ○ 生徒のニーズを把握し個に応じた取組を推進することが求められる。 ○ 教員同士がコミュニケーションをとれる場を増やすことが必要。 ○ 希望進路を実現させることが学校生活満足度の向上に繋がる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 八尾高スタンダードの「見える化」	(1)八尾高スタンダードの検証	(1) 3年間のスタンダードの提示 ファイリング等の「見える化」を 3年計画でスタートさせる。	ファイリング完了 (○) スタンダード全面改訂中 30年度当初完成予定
	(2) 教科としてのスタンダードの完成・展開	(2)新テスト(大学入学希望者学力評価テスト)に向けての各教科の授業改善	(2)共同学習等の授業を実践している教員数 (H28:10人)	教員数 13人 (○) ICT 環境整備の進捗を考慮し 次年度は別の指標を設定 肯定的回答率 99.0% (○) 宿泊研修の内容を含め希望 進路実現のための方策を検討し 次年度は新たな指標を設定
	(3) 1年次「1学期」でのボトムアップ	(3)高校での勉強法の確立 1年次に宿泊研修を実施する	(3)宿泊研修 アンケートについて 「宿泊研修全体について良いか」の 肯定的回答を90%以上	肯定的回答率 99.0% (○) 宿泊研修の内容を含め希望 進路実現のための方策を検討し 次年度は新たな指標を設定
	(4) 自学自習・家庭学習の充実	(4)自学・自習・家庭学習の重要性を意識させる。 ①国公立合格に対応できる基礎学力を養成	(4) ①学力生活実態調査の経年変化を追跡する 2年次生の学力生活実態調査 現役国公立合格圏内者数を100名 (H28:98名)	現役国公立合格圏内 92名 (△) 次年度は進路実現満足度を 指標として設定
	(5) アドバンス教育コースの充実	②1,2年次12月下旬に2日間のロングラン勉強会(自学自習中心の勉強会)を実施する	②ロングラン勉強会の満足度 ・実施後アンケートについて 前年度を維持する。(H28:100%) ・学校教育自己診断 「家庭学習」の肯定率 前年度以上 (H28:52.4%)	肯定的回答 96.9% (△) 次年度からはロングラン勉強会を含む講習等参加率を 指標として設定 「家庭学習」肯定率 51.5% (△) 次年度は課外学習時間を 指標に設定
	(6) 次期学習指導要領、高大接続特別部会の研究・対応	(5)コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を重視した取組みを継続する	(5)満足度 ・アンケート肯定的回答90%以上 (H28:92.9%)	肯定的回答 100% (◎) 満足度の高さは安定している ので指標から除外 全体 1回、英語科 2回 (◎)
	(7) 本校教員による講習・教育産業の有効活用	(6)平成28年度中に明らかになるであろう「答申」の研究及び対応 ・答申に係る研究会等への参加	(6)教員研修会の実施の有無	引き続き研修の充実を図ることとし 指標から除外
	(7) ①本校教員による講習を実施する ②教育産業を有効活用する	(7) ①年間通しての講習の参加数 ・学校教育自己診断 「授業以外の学習支援」肯定率85%以上 (H28:87.1%) ②教育産業の活用人数、アンケート結果等 ・予備校講習について ・アプリやCDなどツールの活用の有無	肯定率 85.7% (○) 次年度からは講習等参加率を 指標に設定 活用人数(延べ) 263人 前年度比 14人減 (△) 講習満足度(平均) 97% 前年度比0.7P増 (○) 次年度からは講習等参加 講座数平均を指標に設定	

府立八尾高等学校

2 人と繋がる力の育成	<p>(1)授業を大切にする、授業の緊張感を大切にするからこそその遅刻防止</p> <p>(2)勉学に軸足を置いた学校行事、部活動の活性化</p> <p>(3)人権教育スタンダードの策定・展開</p> <p>(4)生徒指導スタンダードの見直し・実践</p>	<p>(1)平成26年度5月から強化した遅刻防止指導を継続する</p> <p>(2)勉学に軸足を置いた学校行事を計画し取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノークラブデーの計画及び実施 <p>(3)年間計画の作成及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会・教育相談係会の活性化 <p>(4)・スマホ等の情報機器の活用方法の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の実践 	<p>(1)平成28年度より遅刻数を減少させる (H28 936件 3月末現在)</p> <p>(2)行事準備期間中の下校時間等、約束事の順守</p> <p>(3)八尾高スタンダードへの提示 生活肯定感の測定と生徒のメンタルケアの実施</p> <p>(4)・生徒向け研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノースマホ・ティの実施の有無 (H28 2回実施) ・補導件数の減少 (H28 6件) 	<p>12月末現在 838件 (○) 生活時間の有効活用の視点から指標を見直す 概ね遵守している (○) 生活時間の有効活用の視点から指標を見直し 人権教育の視点を含むスタンダードを現在策定中</p> <p>生徒向け研修会開催なし (△) ノースマホ・ティ 2回 (○) 補導件数 5件 (○) 中だるみ防止や時間の有効活用の視点で新たな指標を設定</p>
3 生徒に関心をもち続ける教育活動	<p>(1)わかる授業・できる授業・魅力ある授業</p> <p>(2)教育相談活動の充実</p> <p>(3)研修の充実</p> <p>(4)安全衛生委員会・運営委員会の充実</p>	<p>(1)一人ひとりの生徒に関心を持った授業を実践する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容や進度が、適切でわかりやすい」 (H28 67.3%) ・「授業や学習指導は本校性の進路に対応したレベルになっている」(H28 82.2%) <p>(2)メンタルケアのための教育相談係会の機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カードの活用 ・アセスプログラムの活用 ・教育相談への流れ(学年会議→保健部会議→教育相談係会議→SCを含むケース会議)の継続 <p>(3) a・人権研修を実施する(H28 2回) b・10年目研修を活用した初任者研修の実施(H28 1回)</p> <p>(4)・教育環境・職場環境の改善等について提言を行う。(H28 3回開催) ・運営委員会で具体策を検討する。</p>	<p>(1)学校教育自己診断アンケート 「授業に対する生徒の意識」の項目の肯定的意見の割合を前年度より向上させる。</p> <p>(2)・支援を必要とする生徒の情報共有 (年間5回以上の全教職員での共有)</p> <p>(3)実施の有無 a実施回数2回 b実施回数1回以上</p> <p>(4)実施回数及び成果 実施回数3回以上</p>	<p>「授業の内容・・・」70.0% (○) 「授業や学習・・・」79.2% (△) ICT環境整備の進捗を考慮し次年度は別の指標を設定</p> <p>情報共有回数5回 (○) 教育相談係会の機能強化を図り次年度は学校教育自己診断(生徒)の人権教育肯定率やいじめ対策満足度で成果を測定</p> <p>a実施回数2回 (○) b実施回数4回 (◎) 次年度は学校教育自己診断(生徒)の人権教育肯定率を指標に設定 実施回数3回 (○) 安全衛生委員会は法に基づき毎月実施をめざす</p>

府立八尾高等学校

4 地域と共に歩む学校	<p>(1)・大阪教育大学を中心とした大学との連携</p> <p>(2)地域の教育関係機関（中学校・小学校・幼稚園等）や行政機関との連携の充実</p>	<p>(1)a・大阪教育大学聴講制度の活用を通して進路選択を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府立高校教職コンソーシアムのイベントを活用した教員志望生徒の育成（アドバンス教育コースとの連携） <p>b大阪教育大が企画する「教師まっすぐ」プログラムの活用 （大阪府立教職コンソーシアムを通じた連携）</p> <p>c「総合的な学習の時間」を活用して、各大学からの出張講義の実施 （H28年度 8講座開講）</p> <p>(2) 学習及び部活動の支援、社会見学、講習会、環境整備等で共催運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生勉強宿泊学習の実施 ・海外スタディツアーの実施 ・ロングラン勉強会の実施 ・学校説明会の実施 ・保護者のための講演会の実施 ・環境アニメテッド八尾（八尾市環境保全課が運営する協議会）との連携 ・八尾いきいきフェスティバルへの運営への参加とイベントへの協力 ・八尾市との連携（旧植田家住宅等のNPOや地域の交流センター等の施設との連携等） ・八尾市選挙管理委員会による主権者教育での連携 ・小学生対象の環境教育、マラソン大会への協力や幼稚園・保育所への実習を通して連携を行う。 ・教科による、保育園や幼稚園への実習等での連携 	<p>(1)a 大阪教育大学聴講についてアンケート肯定的回答 90%以上を維持する。</p> <p>b 参加人数</p> <p>c 開催内容</p> <p>(2)各イベントでのアンケートや参加人数等で成果検証を行う。</p>	<p>a 肯定的解答 100%(◎) 満足度の高さを維持していることから次年度この指標は削除する</p> <p>b 8名参加 (○) 前年度と同数</p> <p>c 8講座開講 (○) 前年度と同数</p> <p>・1年生勉強宿泊学習(再掲) 肯定的回答率 99.0% (○)</p> <p>・海外スタディツアー 20名定員に43名の申込み</p> <p>・ロングラン勉強会 肯定的回答率 96.9% (○)</p> <p>・学校説明会 1回あたりの参加数平均 H28:192.5→H29:204.2</p> <p>・保護者のための講演会 前年度比 20人増の 143人 (○)</p> <p>・環境アニメテッド八尾との連携／八尾いきいきフェス参加／八尾市との連携（旧植田家住宅等）／八尾市立龍華図書館での書道部パフォーマンス／八尾小学校マラソン大会を校内で実施／ピオトープで幼稚園の遠足実施／保育園(3園)での実習／八尾年金事務所との連携 久宝寺コミュニティセンターとの連携 (○)</p>
----------------	---	--	--	--